

『マスターソープ・ゴールド』

(株)イーダブルニュートリション・ジャパン
梅田 浩二 (開発部)

TEL 058-235-7303 FAX 058-235-7505
HP <http://www.ew-nutrition.com>

製品の概要

主成分：アルミノ珪酸水和物 (HSCAS)、酵母細胞壁、ハーブ抽出物
推奨給与量：飼料に対し0.05~0.2% (0.5~2kg/t) を添加
包装形態：25kg/袋

肝臓保護で豚本来のパフォーマンスを引き出す

現在、数多くのカビ毒吸着材が販売されていますが、どれも飼料に含まれるすべてのカビ毒を100%吸着することや無毒化することは不可能です。

家畜の体内に吸収されたカビ毒は、主に肝臓で解毒されますが、微量濃度であっても複数のカビ毒による相乗作用によって強い毒性を示すことが明らかになっています。特に豚は、カビ毒の影響を受けやすく、精液の品質低下や生殖器障害などによって繁殖成績を低下させます。さらに、肝機能障害や免疫力の低下などにより、疾病の影響も受けやすくなります。また、症状を示さない場合でも、解毒や障害を受けた組織の修復のために多くのエネルギーを消費し、増体や飼料効率が低下します。

『マスターソープ・ゴールド』は、カビ毒の生体への吸収量を限りなく少なくするため、アルミノ珪酸水和物 (HSCAS)、酵母細胞壁、ハーブ抽出物を配合しています。ハーブ抽出物には、肝臓保護のためにキク科植物のマリアアザミを独自製法で抽出してブレンド。マリアアザミは約2,000年前から肝機能改善に良いとされ、ヒトでも使用されています。

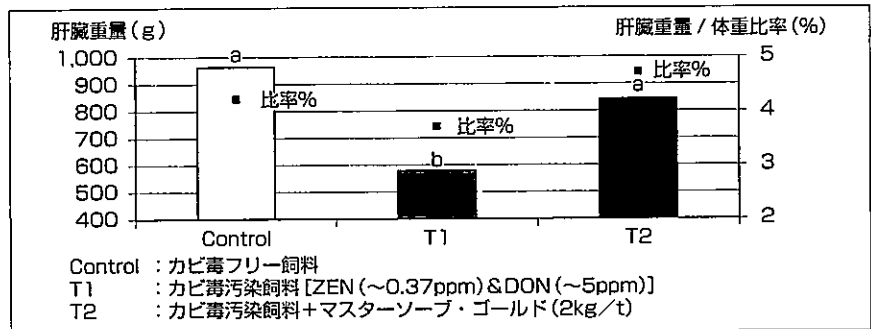


図 マスターソープ・ゴールドの添加試験効果

高い肝臓保護効果

ここでは、ドイツのマルチン・ルター大学が行ったゼアラレノン (ZEN) とデオキシニバレノール (DON) 汚染飼料を雌豚に4日間給与した評価試験の結果を紹介します。カビ毒汚染飼料の給与によって、肝臓が著しく委縮し、肝機能障害を引き起こしましたが、カビ毒汚染飼料にマスターソープ・ゴールドを添加した給与群では、カビ毒を含まない飼料を給与した対照群と肝臓重量や血中AST値などほぼ同等の成績が得られました (図)。AST値とは、肝細胞が壊れると血液中の濃度が上昇するもので、肝機能診断パラメーターとして用いられています。豚で問題とされるカビ毒の中で、ZENやDONは特に、カビ毒吸着材の効果が出にくいとされていますが、この試験において、本製品の

有意な効果が証明されました。

カビ毒吸着材の評価に注意

カビ毒吸着材の有効性は、カビ毒吸着試験結果だけでは判断できません。世界的なカビ毒研究の権威機関であるブラジル・サンタマリア連邦大学 (LAMIC) の報告では、2005~2010年に豚を用いた評価試験にて有効性を示した製品の割合は以下の通りでした。フモニシンに対して54% (13製品中7)、アフラトキシンに対して33% (12製品中4)、ZENに対して18% (45製品中8)。マスターソープ・ゴールドは、LAMICにて上記のカビ毒に対して動物評価試験でも有効性が証明されています。

カビ毒吸着材は各製品によって吸着特性が異なることを認識し、信頼できる国際機関の評価結果も参考にさせていただくことをお勧めします。